

たぐろ

TAKUSUI
No. 628

2

February, 2009

発行 財兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



NEWS

JF岩見とJF苅屋が合併仮契約調印
第33回淡路のり品評会

左義長 (1月13日 明石浦漁港)

Report

平成20年度兵庫県JF役員・幹部職員研修会

JF岩見とJF苅屋が合併仮契約調印

去る平成21年2月5日(木)、たつの市の国民宿舎・新舞子荘において、JF岩見とJF苅屋の合併仮契約調印式が執り行われました。このあと両漁協は2月中に開催予定の合併総会での承認を経て、平成21年4月1日に新生「岩見漁業協同組合」が誕生する運びとなりました。

調印式では、JF岩見の井上 仁組合長およびJF苅屋の濱本良一組合長のほか、両組合の役職員、行政、系統団体からの来賓など45名が出席し、たつの市・西田正則市長およびJF兵庫漁連・小松 司会長(代・山口専務)の立会いのもと、契約書への署名が行われました。

式の冒頭には、両JFを代表してJF岩見・井上組合長が「両組合がともに手を携え、地域漁業の発展に努力していきたい」と挨拶され、調印後には、たつの市市長、JF兵庫漁連会長および兵庫県上郡農林水産振興事務所長から、それぞれ新組合への期待を込めた祝辞が述べられ、調印式は滞りなく終了しました。



“第33回淡路のり品評会”

優秀品24点が選ばれました。

去る、2月3日に淡路水産センターにおいて恒例の“淡路のり品評会”が開催されました。

今年で33回目となる(社)淡路水交会主催によるこの品評会は、色落ちや原油価格高騰、産地間競争の激化など、ノリ養殖経営がますます厳しさを増す中、安心、安全、高品質なノリ作りを目指す生産者にとって意識の再確認を図るという重要な役割を担っています。

今回出品された乾海苔は、12月上旬より1月中旬までに製造されたもので、島内より73点が出品され、第一次審査で50点に絞られた中から、当日、県、業界団体の代表やのり検査員による第2次審査が行われました。出品された乾海苔はどれも「淡路のり」らしい製品であり、特に上位の製品については品質も揃っており、どれも甲乙つけがたいものでした。

審査の結果、兵庫県知事賞の安啓水産(JF森)を始め24の賞が決定し、JF兵庫漁連高瀬のり海藻事業本部長から「いず

れもすばらしいもので、生産者の皆様の熱意とご努力に敬意を表します。」と講評が発表されました。



第33回 淡路のり品評会審査結果表

賞の区分	漁協名	経営体名	代表者名	
兵庫県知事賞	森	安啓水産	畠田安啓	
兵庫県議会議長賞	育波浦	柳川水産	柳川杉雄	
兵庫県淡路県民局長賞	仮屋	岡田水産	岡田光司	
兵庫県漁業協同組合連合会長賞	森	栄住水産	森 活住	
兵庫県立農林水産技術総合センター所長賞	森	丸金水産	森 義政	
兵庫県淡路県民局 洲本農林水産振興事務所長賞	森	徳市水産	森 幹男	
淡路各市長賞	洲本市	炬口	ちくば水産	竹岡千尋
	淡路市	育波浦	内山水産	内山充司
	南あわじ市	南淡	北西水産	北本 勉
兵庫県信用漁業協同組合連合会長賞	森	利平水産	森 正安	
	森	和四郎水産	森 博司	
	室津浦	こんや水産	松下時久	

賞の区分	漁協名	経営体名	代表者名
兵庫県漁業共済組合長賞	一宮町江井	二宮水産	二宮茂嘉
	森	音蔵水産	森 祐三
	育波浦	柿本水産	柿本幸久
全国共済水産業協同組合連合会 兵庫県事務所長賞	育波浦	内海水産	内海春樹
	森	寿 水産	森 泰二
	育波浦	竹昌水産	竹内和久
兵庫県内海漁船 保険組合長賞	浅野浦	森 水産	森司佳幸
	室津浦	大寅水産	浜田伸彦
	仮屋	新平水産	相田和民
社団法人 淡路水交会会長賞	森	大草水産	大草義美
	湊	三共水産	山形和二郎
	五色町	大橋水産	大橋盛夫

JF役員・幹部職員研修会を開催 「規制改革」「環境再生」をテーマに120名!



「規制改革」の疑問点を指摘する加瀬先生

1月27日(火)、県立水産会館において平成20年度兵庫県JF役員・幹部職員研修会が開催されました。この研修会は(財)兵庫県水産振興基金の主催で、組織運営に直接タッチしている漁協役員・幹部職員等を対象に、水産業界の直面している喫緊の課題について共通認識を深め、問題意識や危機意識を共有していこうと開催されたものです。

今回は、わが国の漁業制度の根幹にかかわる国の規制改革の動きと、私たちの大切な生産の場を守り、豊かな海をとりもどすための「環境再生」の2つのテーマが用意され、4階の大会議室は各JFや系統団体からの参加者約120名で埋め尽くされる盛況でした。

第1部は「規制改革と水産業の将来」と題し、東京大学社会科学研究所教授の加瀬和俊先生の講演がありました。いわゆる「高木提言」をベースとした内閣府・規制改革会議の昨年12月に出された答申(注:今の漁業経営難は漁業者自身が招いたものであり、漁業に対する参入の自由化を促進すべき等、これまで漁業者が血と汗で築いてきた漁協活動を大きく否定する指摘が含まれる)があり、まさに漁村の根幹をゆるがす内容です。加瀬先生は「答申は現場の実情を直視していないものであり、独禁法等の趣旨のねじ曲げ等、容認できない内容が多い」と鋭く指弾。「我が国の健全な漁業存続のためには、漁協運動の原点に立ち返り、幅広い国民的支持の獲得と漁場の有効利用のための主体的戦略の確立が不可欠」と、今後の運動の取

り組み方向を示唆され、同時に、「漁業者1人1人が危機意識、問題意識を共有し、系統一丸となって対処するべきである」と力説されました。

また、第2部では広島大学名誉教授の松田治先生が「瀬戸内海の再生に向けて～里海を考える～」と題し、漁業生産と環境保全が両立するような、新しい「里海づくり」の考え方の重要性を強調されました。これは、「ほどほどの栄養レベルがあり、赤潮や貧酸素水塊が発生しない、漁業生産にとって好ましい海域環境づくりをめざす」ものであり、「海だけでなく後背地をなす山、

森、川を一体のものとしてとらえ、漁業者、一般市民が連携して育む必要がある」と訴えられ、「幸い兵庫県知事が瀬戸内海環境保全知事・市長会議の議長を務められており、漁業者側からも豊かな里海としての瀬戸内海再生を訴え、行政施策に漁業者の声を反映させていく積極的な動きが重要」と、傍観者ではなく当事者としての行動意識を強く持ち、これからの里海づくりを展開していく必要性を訴えられました。

いずれのテーマも、現在の漁業関係者にとって避けて通れない重要な課題であり、漁業関係者の皆さんも大に関心を持っていただくとともに、水産振興基金では機会あるごとに本誌等での広報や研修事業の開催に努めることにしています。



「里海づくり」を講演する松田先生

魚食普及活動のページ

淡路市立石屋小学校で絵巻ノリ巻料理教室 JF森



山寄室長の実演



見事に完成!



さあ巻いてみよう

JF森が取り組む魚食普及活動は、昨年の浦小学校に引き続き今回は第2回目となり、節分祭を前に1月15日、淡路市立石屋小学校で『絵巻ノリ巻』と『太巻』料理教室を実施しました。6年生55名は料理教室に先立ち、JF兵庫漁連のり研究所の小西主任研究員による「淡路を中心とした兵庫の魚とノリ」について講義を受け、その後、JF兵庫漁連魚食推進室の山寄室長による絵巻ノリ巻と周平寿司の灰野店主による太巻きの料理実演を見学した後、JF森女性部員と保護者の協力のもと、各々ノリ巻に挑戦しました。生徒達は、断面がチュリップになるよう恐る恐る包丁でチーズ、ソーセージ、きゅうりを加工し、慣れない手つきでノリを巻いていましたが、出来上がりは灰野店主も賞賛するほどとなり、全員でおいしくいただきました。なお、石屋小学校では今年度『魚の3枚おろし』や『干し魚づくり』などの授業も実施しており、このような活動を通じて子供のうちからノリや魚の地産地消に関心を持ってもらうことが大切です。



第8回世界閉鎖性海域 環境保全会議

参加及び中国エコプロジェクト視察団に参加して

(財)国際エメックスセンター（理事長：井戸敏三兵庫県知事）の主催する世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS8）が2008年10月27日から30日の4日間、中国上海市の上海光大国際大酒店（エバーブライツホテル）において、37カ国、約470名が参加し開催されました。日本から145名が参加しました。この会議は華東師範大学、中国環境科学研究院の共催で実現したもので、「河川集水域と河口域の調和」をメインテーマに、基調講演に続き8分科会でポスター発表を含め288人の発表が行われました。会議の集約は別掲・上海宣言「荒海に舵を取り続けて」を採択して閉会しました。なお、(財)ひょうご環境創造協会主催の視察団はEMECS8会場から移動し、「エコ・アジア・エキスポ」見学、広東省「循環経済モデル企業団地」見学、同江門経済貿易局幹部との経済交流など公式行事をこなし広州空港から帰国の途につきました。

上海宣言 荒海に舵を取り続けて

第8回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS 8）は、「河川集水域と河口域の調和」というテーマのもと、450名を超える参加者により中国・上海で開催された。同会議には中国と世界36の国の職域・研究機関・学校・一般家庭から、沿岸域の持続可能性に共通の関心を有する研究者・政策立案者・教師・学生・企業関係者・公務員・NGOの代表が一堂に会した。ここに以下の決議を宣言する。

我々は世界のほとんどの地域で、沿岸海域の修復・保存・管理計画が実施されている事実を喜ばしく考える。それらの中には一定の成果が出た長期にわたるものもある。例えば、黒海の酸素不足に陥っていた瀕死の海の改善、デラウェア河口域の富栄養域の改善などがある。これらは今回の上海会議に出席した国々における環境教育が学校や一般家庭向けに実施され、人々の意識が変化した結果である。各分野の指導者によるこのような極めて深刻で重要な環境問題に対する取組み、並びに政府間の協力が次第に広がりつつあることを、われわれはうれしく思う。

それにもかかわらず、我々は、今日、荒波に舵を取り続けているような困難に直面している。しかし、華麗なビル群に示される昨今の上海のすばらしい経済成長は、我々に大きな計画を成し遂げる能力があるとの希望を抱かせる。とは言え、過去の経験から、我々は経済成長に注意が向けられると環境問題が無視される傾向があることを学んだ。環境問題は国の福利には取るに足らないものとみなされているからである。世界経済が混乱状態にあるとき、今回の会議が開催され、環境問題を論じてい

るのは極めて対照的である。政府が経済問題に対する有効な解決策を求める場合、人々の関心は環境問題から遠くなる。好況であれ、不況であれいずれの場合も沿岸海域が深刻な影響を受ける可能性がある。具体的には水質の悪化、資源生産性の喪失、生態系の完全破壊さえもありえる。

国の経済状況がどのようなであろうとも、我々は政府が沿岸海域を軽視するのを絶対に許してはならない。これを許すことになれば、多くの人々が努力して築き上げた成果を台無しにするだけでなく、沿岸地域社会の福利と繁栄の基礎である環境を犠牲にする可能性がある。さらに我々が経験からまず最初に学んだのは、沿岸海域の環境破壊防止事業より修復事業のほうが費用がかかり最終的には沿岸海域は、他の生態系と同様、ダイナミックで急速に変化しているということである。これらの変化は生態的・社会的・政治的側面を有し、いずれも急速に増大しつつある。そのため、継続的な注意深い測定によってのみ可能な監視と、その成果を適切に反映する管理計画の実施を必要とする。この測定の究極の目標は地球温暖化対策にある。この問題に対応しなければ、地球温暖化とその結果生じる海面の上昇により、世界中の沿岸海域に取り返しのつかない影響が出ることとなるだろう。

未曾有の好況、あるいは不況にあるとき、我々が沿岸海域の保護についてどれほど強く主張しようとも、また、どれほど科学的研究による裏づけを示そうとも、経済についての人々の懸念を払拭し、政治指導者の注意と行動を海域保護に向けることはできない。我々は、健全で、生産的で、持続可能な沿岸海域が国の経済の安定にとって必須であるとこれらの政治指導者に納得させなければならない。したがって、いずれの国においても、またどのような政治的体制にあっても、我々は、人間を、世界中の連綿とつながる沿岸海域に不可欠な存在として正し

EMECS-8 International Conference

Shanghai, China, Oct. 27-30, 2008

Welcome to EMECS-8 International Conference, Shanghai, China



く組み入れる観点に立ち、これを提唱する。この立場は次の要素から成り立つ。

1. 沿岸海域およびその河川集水域は単一のシステムの要素として考えられるべきである。その結果、環境と政策立案の観点からの両者間の調和がシステム全体に恩恵をもたらすことになる。
2. 同様に沿岸地域の社会の経済・文化・創造的活動も、同じ沿岸システムの統合的要素として理解され、調和していなければならない。
3. 従って、沿岸システムのいずれかの要素に質の低下があれば、すべての構成要素に悪影響を及ぼす。逆に、いずれかの要素を改善する活動が見られれば、システム全体が向上することになる。

過去の EMECS 会議の宣言文では、経済的、環境的資産として世代から世代へと受け継がれ、漁業・農業・商業・リクリエーションのような持続可能な経済的利益を生み出す陸・水・人間の活動の間の関係を表すのに、「共存活動の圏域」という表現が用いられた。今回の会議では、「里海」という示唆に富む新しいコンセプトが導入された。これは、調和のとれた人間活動の結果、高い生産性と生物多様性を得た沿岸海域のことを表わす。これら二つのコンセプトは、沿岸海域社会と沿岸海域そのものとの間の好ましい関係がもたらす経済的価値を表わすものである。この関係を正しく把握すれば、利益を得る可能性が生まれるが、それを無視すれば、危機が訪れる。

「里海」とは、人類と閉鎖性海域との間の建設的な相互作用の促進を強調する考え方である。様々な形態が考えられるこの相互作用は、調和の取れた継続的な環境保護プログラムによって実現が可能であろう。生態系に基盤を置く資源管理と農業の実践による持続可能な経済的

利益は、「里海」の持つもう一つの局面である。リクリエーションや芸術活動を通じて沿岸海域のシステムと触れ合う活動もまた、「里海」の別の局面である。特に、急速な経済開発に伴い環境が変化している昨今においては、政府機関、産業界、支援機関は、「里海」に前向きな結果を及ぼす事業に大規模な財政的、知的資源を投入する必要がある。つまり、地元社会が水質を改善し、生活資源である環境を管理する活動を行う体制整備プロジェクトに資源を投入する必要がある。それを成功させることによって、将来に向けた「里海」の持続可能性が維持されていく。また、「里海」は若者と自然界を結びつける教育を重視しており、自然と触れ合う経験から学ぶ機会を提供している。さらにこの考えは、自然界に対する若者の深い関心が、社会や家族、自分たちの健全性に関心しているかをも重視している。この会議での「学生宣言」から若者の声が聞こえてくる。若者たちの宣言を我々は強く支持する。我々の答えが彼らを失望させないことを約束する。第8回世界閉鎖性海域環境保全会議の宣言は簡潔である。つまり、陸・水・人間それぞれが、世界の沿岸海域にとって必須の構成要素という原則に基づき行動しなければならないということである。経済と環境は、芸術と自然に密接に結びついているが、これら全ては教育によって繋がれる。これが、「里海」から得た教訓である。この考えを採用することにより、今日の困難を乗り切ることができる。我々が次の世代に伝えたいのはこのことである。これが我々のコミットメントであり、我々の約束である。

第8回世界閉鎖性海域環境保全会議
参加者一同
中国 上海市
2008年10月30日
(事務局仮訳)

平成21年度兵庫県漁村子弟育英生募集

(財) 兵庫県水産振興基金

(財)兵庫県水産振興基金では平成 21 年度育英生を次のとおり募集します。

1. 応募資格

- ①県下の漁業協同組合又は別記団体に所属する「組合員」、「職員」又は「その子弟」、「遺族」であり、高校又は大学等に在学(入学予定)し、所属団体長が育英生として適当と認められた者。
- ②ただし、日本学生支援機構等から奨学金を受けている者は、本基金の育英生になることが出来ません。

2. 貸与金の額

学 別		貸与月額
大学生		25,000円
高校生	寄宿生	25,000円
	通学生	20,000円

3. 申込方法

所属組合を通じて「育英生予約申込書」、「貸与申込書及び添付書類」を提出して下さい。

提出期日	育英生予約申込書	平成21年3月31日
	貸与申込書及び添付書類	平成21年4月24日

4. 育英生の採用決定

本基金選考基準により審査のうえ採否を決定し、5月上旬頃に所属組合を通じて連絡します。

5. 育英資金の貸与方法

所属組合を通じて、前期分・後期分をまとめてそれぞれ6月・12月に貸与します。

6. 貸与金の返還方法

- ①貸与金は無利息とし、貸与期間終了(卒業)後、1年間据え置き2年目から返還です。
- ②所属組合を通じ、貸与金額に応じて5～10年間の返還となります。

7. お問い合わせの方法

詳細については、組合担当者を通じて、当基金までお気軽にお問い合わせ下さい。

なお、「しおり」を各組合あて送付していますので、併せてご覧下さい。

※別記団体

兵庫県漁業協同組合連合会 兵庫県信用漁業協同組合連合会 兵庫県漁業共済組合 共水連兵庫県事務所
兵庫県漁業信用基金協会 兵庫県内海漁船保険組合 但馬漁船保険組合 (財)ひょうご豊かな海づくり協会
財兵庫県水産振興基金 (社)播磨漁友会 (社)淡路水交會 由良町漁業協同組合連合会

確定申告はお済ですか。平成20年分の所得税と贈与税の申告と納税は、3月16日(月)まで、消費税は3月31日(火)までです。

申告書の作成は、国税庁ホームページの便利な「確定申告書等作成コーナー」で！！

画面の案内に従って金額等を入力して、所得税、消費税の申告書や青色決算書などを作成し、プリンタを使って印刷した「書面」を税務署に提出することができます。

「確定申告書等作成コーナー」で「e-Tax」用のデータを作成して、電子申告「e-Tax」をすることもできます。詳しくは、国税庁のホームページをごらんください。

<http://www.nta.go.jp>



JAハリマから クリスマスプレゼント ハートフルコンサート開催

昨年12月21日、JAハリマはアカペラグループや吹奏楽団、地元バンドが出演するコンサートを宍粟市一宮町神戸小学校体育館にて開催し、地域の人々300名が来場しました。

出演者らは、アニメの主題歌「崖の上のポニョ」などおなじみの楽曲やオリジナルソングで観客を魅了。アカペラグループ『TAKARABUNE(宝船)』が、ジャズにアレンジしたクリスマスソングや打楽器の奏でる音そっくりに口で表現するヴォイスパーカッションを披露し喝采を浴びました。来場した女性は「アカペラの歌を聞くのは初めてだが、まさか地元で聞けるとは思っていなかった。プロの歌声に圧倒され鳥肌が立った。」と興奮気味に感動を語っていました。

このコンサートはJAハリマが地域貢献の一環として行ったもので、西播磨でも山間部に位置する同JA管内(一宮町・波賀町・千種町)では音楽イベントが行われることはめったになく、生の歌声や上質の音楽を味わってもらい、地域の人々に笑顔になってもらおうと企画しました。



アカペラグループTAKARABUNE(宝船)

<http://www.zenchu-ja.org/>

大学生協神戸事業連合 「マイコネジャンボリー08」 エコをおうちに持ち帰ろうを開催しました。

昨年、11月29日(土)王子動物園動物園ホールで大学生協による「マイコネジャンボリー」を開催しました。

2年前から大学生協で運営をしているSNS「マイコネクト」を利用している学生が交流を深め、インターネット上からリアル(現実)の世界に飛び出して環境のイベントを行いました。環境イベントというと「固い、我慢をする」というイメージが多くみられますが、楽しんでエコ活動を行うためのきっかけづくりとして、コープこうべさんを始め、学生の環境に関するブースを体験型で出しました。また、来場者に「明日から取り組むエコ宣言」を紙風船に書いてもらい、床発電、自転車発電で蓄積した電気を使って、「エコツリー」として最後に点灯しました。来場者は約300人で、滞在時間も長く子どもから大人まで楽しんで環境について学び、知ってもらうことができました。兵庫県や神戸市の協力もいただき、「ワケトン」の登場には子供たちも大喜びでした。世代を超えて、楽しく環境を体験、考えてひとつになれた一日でした。



製作中のエコツリー



ワケトンとエコツリーを囲んで

<http://www.co-op.or.jp/jccu/>

お魚調理 ワンポイントアドバイス

三枚おろし

下ごしらえが終わった魚は綺麗に水洗いし、ウロコと血を取り除きますが、洗った後、魚から水分を拭き取ることが、魚調理には大事なポイントです。

さばいた魚の身に、間接的に汚れや血を付けないための作業ですので、同時に包丁とまな板も洗い、水分を丁寧に拭き取っておきます。

次におろし方ですが、

魚の扱いに慣れてくると三枚おろしをする場合、腹→背→背→腹の順番におろして行くと、速くさばけるのですが、慣れるまでは、まず背の方からさばくと楽でしょう。

そしてまずは包丁の先端5mm程度を使い、ヒレ沿いに、皮だけを切るかの様に、刃を進めます。生魚の皮を切る場合、それなりに刃に抵抗感があり、力を入れますが、身の方は柔らかく、力を入れると余計な部分を切ってしまうこともありますので、まずは皮を切り、その後切り進めるための、包丁をあてるマーキングとします。

皮が切れ1本の線が現れれば、切る場所が決まったのですから、包丁をその線に沿うように当てがい、中骨を意識し、出来るだけ寝かせ力をいれずに引き切ります。

数回の動きで切ろうとせず、包丁の刃の刃渡り全部を利用し、力を入れず切り進めましょう。



兵庫県漁業協同組合連合会 魚食推進室

旬に想う

写真と文
遊方子

鬼の世界

◆日本最古の鬼瓦は、法隆寺若草伽藍のものだそうだが、白鳳時代末頃に魔除けとして使われたらしい。鬼とは、角を生やし目を怒らせ、口から牙の覗く姿を想像するが、荒ぶり憤怒の形相に特徴がある。それは悪霊や悪鬼を降伏させる鬼神であり、人の感性が生み出したものだ。本来、「鬼」という字は先祖の霊を表しているという。それが陰陽五行説の影響を受け、恐ろしく人を食らう怪物とされ、それに仏教が絡んで、餓鬼や赤鬼・青鬼へと変化したものだそうだ。頭に牛の角を生やし、虎皮の褌をした姿を表すのは「鬼門」が北東(丑・寅)を指す事から、牛と虎を考え出した姿だという。

◆鬼には恩寵と懲罰の二面性があり「招かれる鬼」と「追われる鬼」に分けられる。招かれるのは鬼神で、追われるのが悪鬼である。男鹿半島に伝わっている『なまはげ』は前者で、笠を被り蓑を着て鬼面をつけた異様ないでたちで、出刃包丁や手桶を持って現れる。その家の主人が戸口に出迎え、奥座敷へと案内して酒肴でもてなす。鬼は子供や嫁を戒めるため、家中を暴れ回って帰ってゆく。このような来訪神を演じる行事は諸所で行われ「春來る鬼」と呼ばれる。家々で歓迎される喜ばしい鬼なのである。

◆『節分』は1年間の除災を祈って、全国の広い範囲で伝承されている。県下でも、鬼追いや鬼踊りは摂播国境から姫路近辺

の神社寺院で行われており、鬼と信仰が結びついて内容も様々である。オニが踊りに使った松明を戴いて帰り、軒下に吊るしたり、ヒイラギの枝に鯛の頭を刺して戸口に掲げる。ニンニクやトベラの木を使ったりもするが、災厄を逃れるための願いを込めたものである。節分に豆を撒くのは、マメが「魔滅」に通じ厄除けになり、またマメに暮らせるようにという庶民の願いでもあるそうなの・・・。

◆神戸長田神社の「古式追儺式」(こしきついなしき)は平安の頃から続いており、素晴らしい伝承の形が見られる。県指定の無形文化財として大切に受け継がれている。オニは赤鬼・青鬼・呆助鬼・姥鬼・一番太郎鬼・餅割鬼・尻くじり鬼の7匹である。オニ役は前日に、須磨の海に入って禊をして来る。麻の褌を締め、肘や臍(すね)を麻苧(あさお)で縛り、伝承される鬼面をつけ、太鼓と法螺貝に合わせて何度も何度も松明を継ぎ足して踊る。踊りはすべて裸足だから、足裏が真っ黒になる。激しい動きと這い上がる冷気で指先は紫色を帯びる。強い体力が要求されるオニ芸である。観覧した日、夕刻から小雪が舞い、非常に寒かったのを思い出す。



【鬼瓦】(神戸森林植物園にて)

大輪田塾だより

「規制改革問題」と「瀬戸内海の再生」

1月の大輪田塾は27日に兵庫県立水産会館で開催された平成20年度兵庫県JF役員・幹部職員研修会の認証講座となりました。第1部は「規制改革と水産業界の将来」と題し、昨年12月の内閣府の規制改革会議における第3次答申について、東京大学社会科学



加瀬先生の講義

研究所教授の加瀬和俊先生が、漁村現場の実態に大きくかけ離れた内容と、その対策としてJFの今後取るべき対応について講義されました。第2部は「瀬戸内海の再生に向けて

～里海を考える～」と題し、広島大学名誉教授の松田治先生が、豊かな海とは単に見た目にきれいな海のみならず、漁業生産に必要な栄養塩や窒素などを適度に含む漁業と環境の共生である点を、瀬戸内海と他地域との比較やこの運動の広がりの紹介を交え講義されました。どちらのテーマも自分たちの将来の漁業活動を左右しかねない大きな問題で、塾生は真剣な眼差しでメモを取っていました。



松田先生の講義

表紙の言葉



「左義長」

小正月に行われる火祭りの行事で、地域によっては「どんと焼き」「とんど」等とも称され、しめ飾り、書き初めなどを焼き、字の上達や一年の安全などを祈願するものです。明石浦の左義長は、漁協と地域が共同で行う市内で最大級のもので、高さ12メートルの骨組みに鯛やサワラなどを飾り、それを1000本の青竹で囲み、しめ飾り、門松などと一緒に燃やします。海上安全と豊漁を祈る魚のまち、明石らしい行事です。